

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 加古川

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>令和2年度頃より主に若い世代を対象とした食育を推進しており令和5年度からはHYOGOアサ@プロジェクトに参加し、高校生に対し朝食摂取の必要性について啓発している。地元食材を使った商品開発を通じ高等学校や企業、農林水産振興事務所と繋がりができた。</p> <p>一方、県が平成30年度より実施している、高齢者の食育にはあまり取り組めていない。令和8年2月現在の管内2市2町の高齢化率は、加古川市29.3%、高砂市31.1%、稲美町33.2%、播磨町28.2%と県平均(29.9%)と比べて5%以上高い市町はないが、いずれの市町も高齢化率は年々増加しており、早めの啓発・対策が必要である。</p> <p>また、デジタルツールを活用した情報発信を継続するとともに、効果的な啓発方法を検討し、食に興味関心の薄い人も参加しやすい食環境づくりを進める必要がある。</p>
今年度の推進方策	<p>高齢者の健康づくりに向けた食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者大学においてフレイル予防の普及啓発。 <p>食育推進のための体制整備</p> <ul style="list-style-type: none">・地域住民が利用する場所で、デジタルツールを活用し、食に関する情報発信を実施する。
成果	<ul style="list-style-type: none">・いなみ野学園生539名にフレイル予防啓発ができた。アンケートによりフレイルに対する認知度等を把握することができた。・デジタルツールによる啓発：食育月間、アサ@をテーマに実施した。管内市町食育担当者とデジタル食育の充実について検討したが、フレイル予防の啓発に関しては県既存コンテンツの周知が不十分なことが明らかになった。 <p>※HYOGOアサ@プロジェクトは、積極的な関わりを持てなかった。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">・高齢者の健康づくりは継続実施する。・デジタルツールを活用した食育体制整備に取り組むとともに、年代に応じた啓発方法を検討していく。・HYOGOアサ@プロジェクト等を通じて団体・企業との連携強化を図る。

2 会議の開催状況

実施日時	令和8年2月12日(木) 16:35~17:15
構成員 (団体数 及び人数)	管内各市町食育所管課栄養士 計 3機関・3名
協議内容	<ul style="list-style-type: none">・令和7年度実践活動の報告・各市町の取組状況について情報交換
今後の方策	高齢者の食育や、デジタルツールを活用した食育体制整備を進め、各世代に配慮した情報提供の工夫や、無関心層に対する食育推進に有効な方法を検討していく。

3 食育実践活動の結果

テーマ	1 高齢者の健康づくりに向けた食育の推進 2 デジタルツールを活用した食育推進の体制整備		
対象及び参加者数	① ② ③ いなみ野学園生 539名 ④ 加古川総合庁舎1階かこむ利用者 ※人数は未把握		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	① 令和7年 6月19日(木) 県いなみ野学園	テーマ：高齢者の健康づくり 講話「高齢者の食生活・フレイル予防」	当所栄養士
	② 令和7年 10月7日(火) 県いなみ野学園	テーマ：高齢者の健康づくり 講話「兵庫県の食育計画、高齢者の食育について」	当所栄養士
	③ 令和8年 1月9日(金) 県いなみ野学園	テーマ：高齢者の健康づくり 講話「兵庫の食育と地域づくりについて」	当所栄養士 いずみ会
④ 令和7年10月 令和8年3月 加古川総合庁舎内	幅広い年代が利用する「かこむ」(加古川総合庁舎内)付近に設置しているTVモニターを活用し、食や健康に関する情報を発信。 10月：ひょうご食育月間 3月：アサ@、朝食摂取啓発	当所栄養士	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き高齢者の食育に取り組めた。学習意欲が高い高齢者(県いなみ野学園生)500名余に対してフレイル対策の啓発ができた。フレイルチェックを通して、基礎的な知識はあることや、習慣的に食べている食品摂取の状況を把握できた。 ・また、学園のコンセプト「学びを地域へ還元する人の育成」に合わせ、地域で食育活動を実践するいずみ会の紹介を行い、管内内外の住民に広く会の周知ができた。 ・デジタツールを活用した食育は2回数実施した。ひょうご食育月間と、HYOGOアサ@プロジェクトにおいて、地元高校生と企業の考案する、地元食材(大麦)を使った朝食向けの商品紹介と合わせ、朝食摂取の大切さ啓発を行った。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎モニターによる啓発回数を増やし、デジタルツールを活用した食育体制整備を図る。 ・より実践につながるような講座運営を目指す。また、対象者(生涯学習者)の特性に合った内容にバージョンアップする。 		

※プログラム、資料は別添のとおり。

～令和7年度健やか食育プロジェクト事業～

高齢者の健康づくりと、 デジタルツールを活用した 食育推進の体制整備

加古川健康福祉事務所

背景

- ・令和2年度頃より若い世代を対象とした食育を推進しているが、高齢者に対してあまり取り組めていない。管内のいずれの市町も高齢化率は年々増加しており、早めの啓発・対策が必要である。
- ・デジタルツールを活用した情報発信はデジタル食育を推進するため継続する。効果的な啓発方法を検討し、食育に興味関心の薄い人も参加しやすい食環境づくりを進める必要がある。
- ・朝食摂取の必要性等、食の大切さを広く普及するため、関係団体と幅広く連携・協同し、ネットワークを築きながら推進する必要がある。

取組①

高齢者の健康づくりに向けた食育の推進

- ・県いなみ野学園生、562人に「フレイル」、「高齢期に取り組んでほしい食生活」、「県の食育」等について講話した。



学園のコンセプト「学びを地域へ還元する人の育成」に合わせ、
地域で食育活動を実践するいずみ会の紹介を行った。

取組②

食育に関する情報を発信

幅広い年代が利用する「かこむ」(加古川総合庁舎内)付近に設置しているディスプレイを活用し、食育に関する情報を発信。



取組③

若い世代の食育力の強化

公民連携事業「HYOGOアサ@プロジェクト」に参画し、製品PRに協力の際、朝食摂取の大切さについて啓発した。



東播磨産(米粒麦)を使用したドーナツ



食育推進会議

管内各市町栄養士と、フレイル対策やデジタルツールを活用した効果的な食育の推進について情報交換を実施。



今後の方向性

- ・引き続き、高齢者に対する食育やデジタルツールを活用した食育体制整備に取り組む。各世代に合った食育について検討を継続する。
- ・HYOGOアサ@プロジェクト等を通じてつながった団体・企業との連携強化を図る。